一般社団法人　松本青年会議所　広報誌　Vol.1

Leaders

発行：一般社団法人
松本青年会議所
広報渉外拡大委員会

2020 年 2 月 20 日発行

百花繚乱の一年に

松本青年会議所の広報誌「Leaders」が創刊した。この媒体を通じて会員やＯＢはもちろんのこと、一般の方々にも私たちの活動を知ってもらい、理解と共感の輪を広げていきたい。その活動は巡り巡って、松本の未来をより明るくするに違いない――という確固たる信念がある。記念すべき第１回は、理事長の小林篤史にインタビュー。自分たちの取り組みを通じて、私たちのまち・松本をどのようにしていきたいのか。根底にある思いはどのようなものか。その胸中に迫りながら、思い描くグランドデザインを明らかにしていく。

――どのような１年にしたいか、所感を。

「魅力と個性あふれるまち」「繋ぐ×つながる　マツモト」「挑戦と寛容」という３つのキーワードを掲げさせてもらった。この３つを基軸にして、世界から愛されるまちを目指したい。

「魅力と個性あふれるまち」は、会員一人ひとりの個性を大切にして個性の花が咲き乱れるようにしたいという思いから。松本には他にない素晴らしい個性があふれている――ということは前提だが、住みくらしている人たちは気付きにくい側面もある。長年愛されていた名店が後継者不在で閉めてしまってから改めて魅力に気付くようなこともある。「個性と魅力はすぐそこにある」ということを意識してもらうようにしていきたい。

「繋ぐ×つながる　マツモト」は、グローバル化が当たり前になって世界との距離がどんどん縮まっている今だからこそ重要だと感じる。まちを歩いていても外国人観光客がすごく多い。国宝・松本城をはじめ、セイジ・オザワ松本フェスティバル、草間彌生さん、串田和美さんと芸術文化にも世界基準の要素が揃っている。ただ、今の幸せがこの先も続く保証はないから、まちをさらに良くしていくにはどうしたらいいのかを考えていかなければいけない。

「挑戦と寛容」は、若者の定着率向上を視野に入れて掲げた。例えば信州大学の学生は約９５％が県外出身者で、残り５％くらいが県内。学業が終わればほとんどの学生が長野県を離れてしまっていることを考えると、定着率を良くしていかなければ未来はない。だから、外から入ってきたり戻ってきたりしてチャレンジしようとする若者を後押しする雰囲気のまちにしたい。背中を押してあげられるような寛容性があった方がいいと思う。

――その中で、どのような部分にフォーカスして活動をしていきたいか。

昨年４月の松本市議会議員選挙の投票率が、県下でも最低水準の４３．７３％。この数字に強い危機感を持っている。裏を返せば今の市政や松本市のまちづくり、あるいは皆さんの生活においても一定の充足感があるが故なのかもしれない。それは百歩譲ってアリかもしれないが、今がいいのなら投票行動で意思を示していただきたいと思う。特に若者の投票率に関しては非常に危惧している。選挙権が１８歳からになったが、やはり高齢者の投票率が高ければ高いほど、高齢者に対してのサービスが充実して税金の投入も増えていくのは当然の成り行き。もちろん高齢社会なので重要な要素であるのは当然だが、その陰に次世代を担う若者が隠れてしまって、「若い人たちは何がしたいのか？」という部分がなかなか見えづらくなってしまっているのが現状ではないかと認識している。

選挙とは、投票権を持つ一人ひとりがパズルのピースを持っているようなものだと思う。それぞれが当てはめられた結果、１つのパズルがしっかりできあがる――というイメージ。だから３月に行われる松本市長選では、皆さんが松本の未来を担うパズルのピースを１つ持っていて「みんなで完成させよう」という思いで投票所に足を運んでもらえるとうれしい。その結果として投票率が向上すればいいし、主権者意識の醸成も日頃から訴えていきたい。

そのためのアクションとして、松本青年会議所主催の公開討論会を開く。それ以外にも、今回はウェブを活用した事業を考えている。公開討論会で動員すればそれで終わり――ではなく、あくまでもその先を見据えて投票行動を起こしていただけることが大事。松本市の選挙管理委員会さんも投票行動を促す行動をしているが、その活動を補完できるような青年会議所らしい運動をしていきたい。具体的にはＳＮＳの活用。公平中立を保ちながらどこまでできるのか、私たちとしても一つのチャレンジになる。

――観光についてはどのような考えを持っているか。

松本周辺は自然由来の観光地が多いため、冬季閉鎖に伴う季節変動が大きい。夏を１００％とするのであれば、冬場は本当に半分くらいと思っていただいていい。止むを得ない部分はあるが、冬のコンテンツを我々としても発信して来てもらうことを考えていく。例えば冠雪した北アルプスと晴天の鮮やかなコントラストに加え、そこに松本城もフレームインすれば非常にフォトジェニック。四季を楽しめるまちだという部分はぜひ世界に訴えていきたい。松本城にしてもＧＷや夏休みのピーク時は１２０分待ちにまで人が膨れ上がるが、冬の時期に来ればスムーズに入れる。そういう部分も発信していきたい。

あとは季節に関係なく誘客の要因となるのが「ひと」。観光客側から見ても、「接した人が良かったからリピートしよう」と考えることは十分にある。もちろん最初に来てもらうための起爆剤となるコンテンツは必要だが、その後で何度となく足を運んでもらうためには、「食事を運んできてくれた人が気さくで良かった」「ホテルでチェックインした時に色んなことを教えてくれて思い出になった」「松本城を案内してくれた人が親切だった」「道に迷っていたら教えてもらった」とか、本当にそういう小さなことの積み重ねだと思う。

だから、市民全体で松本を愛する心がもっと高まれば、自然と色んな方々に魅力を伝えてもらえるんじゃないかと思う。一人ひとりが無関心にならず、来てくれる観光客に対して心を開

いて「よく来てくれましたね」とおもてなしをするような考え方が芽生えれば、観光都市としてさらに昇華できると思う。そうするためには自分たちも知識を身に付けることが必要なので、まず行動を起こして発信してリアクションを見ていきたい。小さな一歩かもしれないが、この冬から始めていく。

通年でのテーマとしては、今年は東京五輪が開催される。昨年のラグビーワールドカップの際も余波として好影響があったので、世界から日本が注目を浴びるタイミングでは必ず影響を考慮しながら活動をしていきたい。地元には信州まつもと空港があり、国内線は昨年 10 月から神戸便が就航して順調に数字を伸ばしている。夏は増便をしているし、昨年は松本青年会議所でもチャーター便を宮古島に飛ばす計画を立てた。空港がなければそもそもこうした活動はできないし、そういう意味でも非常にありがたいし恵まれている。インバウンドが増えれば地方空港にも余波があるだろうし、長野県の政策として悲願でもある国際線の定期便化に向けて我々も取り組みをしていきたいと思っている。

――活動を継続していくためにも、会員の増加が一つの鍵になってくるのでは？

その通りだと思う。思い返せば私は父親が理事長だったのもあり、幼少時から青年会議所の事業に参加していたようなイメージがある。まちを歩いて本当によく覚えているのは、冬に映画を観に行くときのこと。普通に車で行けば済むところを一緒に歩いていると、３分に１回くらいのペースで挨拶をする。「この人はどれだけ知り合いがいるんだろう！？」と驚いた。その道中では必ず決まったお好み焼き屋さんでお好み焼きを食べ、大学芋を買って、笑顔で映画を観て帰った。そうやって父は父なりに、この地域の温かみや魅力を伝えてくれていたのかなと思う。そういう背中を見ていたので、今も青年会議所の活動に関しては、支えてくれている家族に感謝をしながら思いを持ってやらせていただいている。

その半面、どうしても忙しいことは否定できない。どこの企業さんも今は人手不足で、業績もなかなか…という話も聞く。そういう社会情勢がある中で、なおかつ青年会議所のメンバーとなる世代は「現場から抜けられない」という悩みを非常に多く抱えていると思う。そうした中で１０年間にわたって活動を続けるのは難しいかもしれないし、「４～５年やればいいのでは？」という雰囲気が何となくあるのも否めない。新たに会員に勧誘する際も、「２～３年後、いずれは入りたい」という回答をいただくことがすごく多い。確かに今大変なのは理解できるけれども、残念に感じる部分も正直ある。この広報誌にしても、仲間や理解者を増やしていきたい――という考えの中で創刊することになった。

――興味はあるけれども本業が忙しいという難しさがある中で、参加することによって得られるものは？

新入会員の方に話をするときに使う、一番わかりやすい例がある。「仕事と家庭と青年会議所の活動は何対何対何ですか？」という割合で聞く。入会した当初はおそらく、「青年会議所が２で仕事が５で家庭が３」で…といった具合に、トータルを１０で収める考え方が自然だと思う。でも青年会議所の活動をしていると、多分気が付かないうちにトータルの分母が１０から１５くらいに増えていく。家庭も大切にするし仕事も頑張るし、青年会議所でも精力的に活動をする――というように、エネルギーの絶対量が上がるイメージ。こうした状態をキープして青年会議所を卒業すると、そこに余力が生まれて新しいビジネスにチャレンジできるかもしれない。

活動する年数が減れば減るほどこの器の総量が大きくなるチャンスは減ってしまう。生活観を変えないまま加齢して、人脈の広げ方も仕事の広げ方もわからなければ新しいことに挑む気持ちそのものが芽生えないかもしれない。だから、青年会議所に所属してできるだけ長く活動してもらえれば、それだけ充実した人生を送っていただけるのではないかと思う。何よりも自分自身が、早くから活動してきて自分の器が大きくなっていくことを身をもって体験してきた。気が付かないうちに周囲の理解を得られていたり、活動にも以前より参加できていたりとか、時間をうまく調整できるようになっていたり。そういう部分でも非常に魅力的だと思う。会員の絆は強いが、単なる仲良しグループではない。一人ひとりがこのまちの大切なところに気付けるのにも時間が必要だと思う。

――活動を続ける中で、自然と「松本を良くしよう」「元気にしよう」という思いが芽生えてくる？

最初は「この人たちはまた松本のことを熱く語っている」というふうに感じられるかもしれない。それでも自然と気が付かないうちに「自分も」と、いい意味で引っ張られていく部分は少なからずあるんじゃないかなと思う。活動に参加すればするほど必然的にコミュニケーションの機会は増えてくるし、そうすれば自然とこのまちとの結び付きが強くなるし思い入れも深まる。最初はいろんな目的を持って入ってくると思うし、もしかしたら「入れられた」人もいるかもしれない。ただそれでも主体性を持って活動すれば見えてくるものはあるので、まずは入ってみていろんな人と話をして熱を感じてほしいと思う。

――最後に、改めて読者の方々にメッセージを。

松本青年会議所は２０１９年に６０周年を迎えた。区切りの年には必ず次の１０年間を見据えたビジョンを作成し、それを軸に１０年間の活動を展開していく。５年経った時に検証していくという形になるが、今年はその１歩目。どうしても色んな部分でスタートと考えなければいけない。本当は夢のある大きな事業を最初から打ち出すことができれば注目は集まるのかもしれない。だが逆に考えると、スタートの大切な一歩だからこそ地に足をつけ、今の松本が直面している問題に対して一歩を踏み出せるような１年にしていきたいと思う。それに加えて 60 周年の昨年が非常に盛りだくさんだったのもあり、必要以上に力まずに進んでいく年になるのかなと。ただ、そうした「はじめの一歩」はすごく大事。みんなで考えてみんなでつくったビジョンを１０年後にしっかり達成できているよう、みんなが主役の１年にしていきたい。会員一人ひとりの個性を大切にしながらそれぞれの個性の花が咲き乱れるようなイメージで、「百花繚乱」というスローガンを掲げた。その言葉通りになるような運動を進めていく。

委員会紹介

第61代小林篤史理事長のもと、
活動を行う８つの委員会・会議体を紹介します。

郷土の未来選択委員会

- 松本市長選挙に向けた投票率向上運動
- 次世代を見据えた若者の居場所づくり
- 未来に繋がる意識調査の実施

郷土強靭化委員会

- 防災対策の検証と構築
- 各種団体との災害協定の模索
- あらゆる世代の防災への意識付け

郷土のレガシー発信委員会

- 松本城などの歴史的な資産価値を検討
- 次世代とレガシーを繋ぐ
- ３ガク都の可能性を模索

郷土のちから創造委員会

- このまちの未来を前向きに考える事業の構築
- 若者とのセッション事業の構築
- ＳＤＧｓを用いた持続可能なまちづくりを検討

広報渉外拡大委員会

- 組織の価値向上を目指す戦略的広報
- 出向者のサポート
- １００名体制を目指す会員拡大実践
- 姉妹青年会議所との交流事業の実施

総務組織力向上委員会

- 次世代に向けた会務機能の構築
- 戦略的な財務運営及び基金の道筋を検討
- 会員の資質向上

観光連携推進委員会

- 観光都市松本への昇華
- 冬場の観光対策の検討
- 信州まつもと空港の持つ可能性の発信

未来のＪＡＹＣＥＥ育成会議

- 新入会員同士の絆を深める
- 青年会議所の基礎を学ぶ
- 自らの提案、発信する力を身に付ける

優秀ＬＯＭ経済開発プログラム・地方創生担当大臣賞を受賞しました!!

受賞事業：Challenge to dream
「キッチンやまなみ復活プロジェクト」（2018年実施）

１月１８日に行われた「ＡＷＡＲＤＳ　ＪＡＰＡＮ２０１９」にて、「経済開発プログラム・地方創生担当大臣賞」優秀賞を受賞しました！

今注目を集めるクラウドファンディングで資金を調達し、多くの市民に愛されたスパゲッティの名店「キッチン　やまなみ」を期間限定で復活させました。名誉ある賞をいただき本当にありがとうございました。

会員募集中!!

松本青年会議所の仲間を募集しています！　自分たちが住みくらすまちをより良くするために一緒に活動しませんか。お問い合わせをお待ちしております。

問い合わせ先

一般社団法人　松本青年会議所
Tel：0263－32－7646
（受付時間１０：００～１６：００
土日曜祝日はのぞく）
E-mail：jcmnet@po.mcci.or.jp

今後の事業

～郷土の未来を考え、選択する～

松本市長立候補予定者によるフリーディスカッション形式の公開討論会を行います。事前申し込みは不要です。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 2020年2月25日（火）19：00～21：00
場所 中央公民館（Ｍウィング）６階ホール
松本市中央１丁目１８－１ Ｍウイング南
主催 一般社団法人 松本青年会議所　**参加費** 無料
後援 一般社団法人 公開討論会支援　リンカーン・フォーラム

編集後記

「LEADERS」第一号、いかがでしたか。初めての試みでまだまだ分からないことが多いですが、私たちの想いが多くの方に届くよう今年度３回にわたり作成します。百花繚乱、松本青年会議所が咲かせる数々の華をお楽しみに！！

広報渉外拡大委員会
委員長　竹　内　　隆

紙面向上のため、アンケートにご協力をお願い致します。
←QRコードよりアクセスください。

一般社団法人 松本青年会議所 広報渉外拡大委員会
事務局　〒390-0811 長野県松本市中央 1-23-1　松本商工会館 3F
TEL.0263-32-7646　FAX.0263-36-2024
HP http://www.matsumoto-jc.jp

公式サイト　Facebook　Instagram

一般社団法人 松本青年会議所は
SDGsを推進しています。